

第2回大山崎町地域公共交通会議住民部会 次第

令和6年7月25日（木）午前10時
大山崎町役場 3階 防災会議室

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 事務局からの報告
第1回住民部会の振り返りについて
4. ワークショップ
議題
「前回のアイデアを実行するために必要なことは？」
5. まとめ
6. その他

配布資料：

- ・ 会議次第（本資料）
- ・ 委員名簿
- ・ 座席表

会議資料：

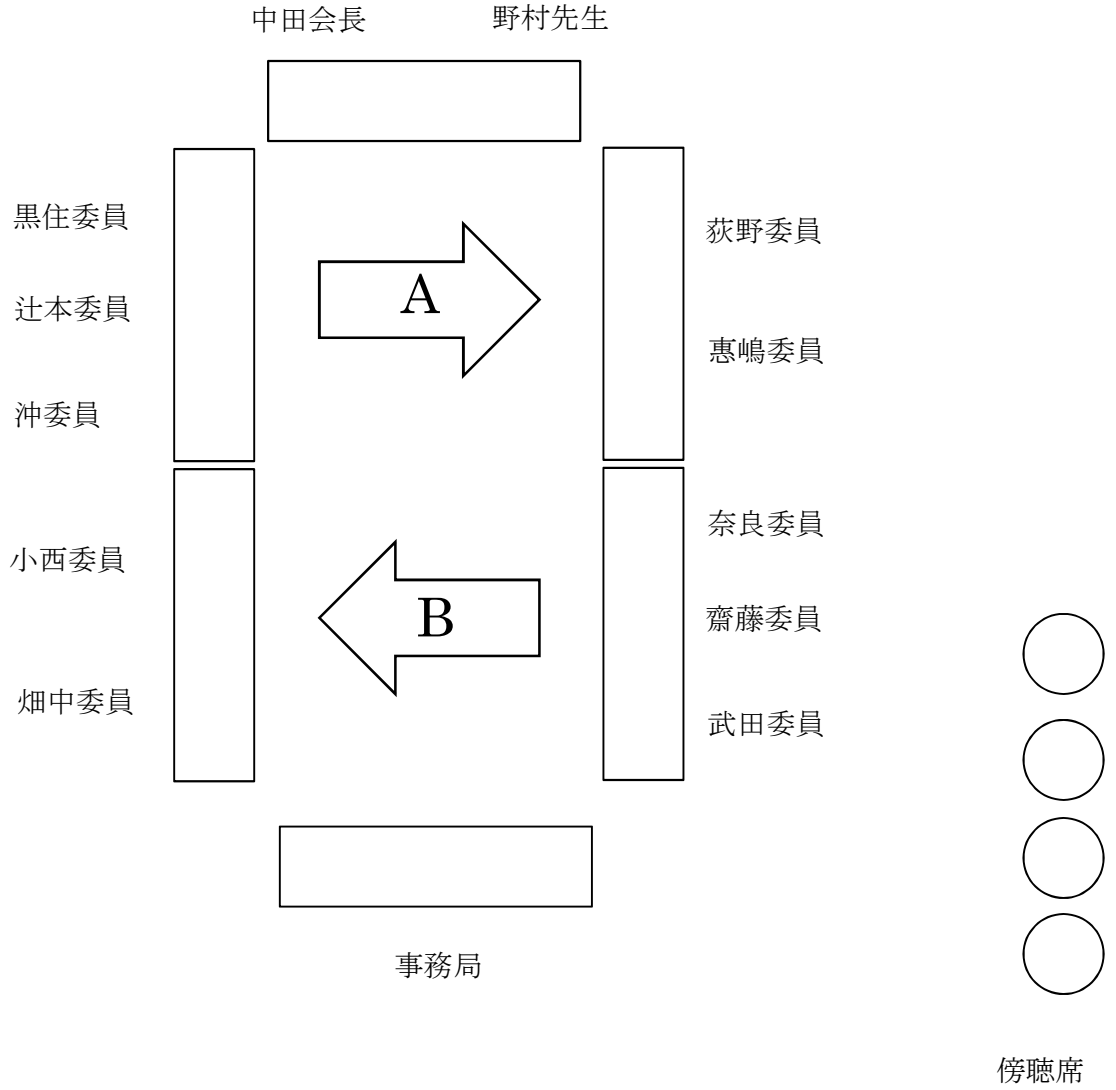
- ・ 資料1：第1回住民部会の振り返りについて
- ・ 資料2：ワークショップについて

大山崎町地域公共交通会議 住民部会委員名簿

(令和6年7月25日現在 敬称略)

区分	事業者名等	委員名	適用	グループ
住民・利用者の代表	大山崎町社会福祉協議会	荻野 和雄	会長	A
	大山崎町商工会	齋藤 円	会長	B
	大山崎町身体障害者協会	恵嶋 幸子	会長	A
	公募委員(町内会長・自治会長)	奈良 敏雄	山三上町内会長	B
	公募委員(町内会長・自治会長)	梅野 智幸	若葉自治会長	
	公募委員(町内会長・自治会長)	黒住 陽子	円団西2会長	A
	公募委員	小西 重和	一般公募委員	B
	公募委員	辻本 貴朗	一般公募委員	A
	公募委員	畑中 真	子育て世代公募委員	B
その他会議で必要と認めるもの	大山崎町都市計画審議会	中田 貞之	会長	
	大山崎町	武田 敦史	総務部長	B
	大山崎町	藤波 哲也	環境事業部長	
	大山崎町	沖 和哉	健康福祉部長	A
アドバイザー	大谷大学	野村 実	講師	

第2回大山崎町地域公共交通会議 住民部会 座席表



第1回住民部会の振り返りについて

①コミュニティバスを活用してしたいこと（できること）

1. 介護予防の取組や公民館サークル活動などは、活発に活動しているので、その利用と連携することによって、コミュニティバスの活用が活発になるのではないかな。
2. コミュニティバスに乗るための補助金を支給することによって、コミュバスの活性化が図れるのではないかな。
3. 運行の経費を抑えるすべとして、現状の長寿苑のうぐいす号を転用し、活用をすることによって、経費が抑制されるのではないかな
4. 商工業であったり、観光であったり、というような地域の活性化を目的に、コミュニティバスを活用する
5. コミュバスを使われる方の目的や、その使用用途をしっかりと的確にとらえることによって、より利用が向上するのではないかな
6. 観光地、例えば山荘美術館のようなところを巡るようなルートがあればいいのではないかな
7. 円明寺団地の方が、JRの駅に行けるような路線を作ることが必要ではないかな
8. 大山崎町域だけを走るのではなくて、例えば済生会病院など長岡京市域にも、入って運行させるということも必要ではないかな
9. 常に巡回をしていて、20分に一本はバスが走っているような状況ができればいい
10. 町内を巡るツアーのような形で、交通手段というよりは、乗ることを目的として、コミュニティバスを活用する
11. バスを見かけた際に、手を挙げたら乗ることができたり、バス停以外のところでも乗り降りができるればいい
12. 子どもが乗りたいと思うような、子どもが乗ったら楽しいようなことを何か考えて、子育て世帯の利用を促進する

②バスとタクシーが共存する方法

1. 病院や買い物にバスで行って、タクシーで帰るような仕組みをすること。行った先に、タクシー乗り場があれば、バスで行って、帰りはタクシーの利用に誘導できるのではないかな
2. 町体育館に、現状行くすべがないということで、例えば、バスで行って、帰りはサークルの仲間と同じ方向の方が、タクシーに乗り合って帰るというような仕組みづくり
3. タクシーチケットを配布することによってタクシーの利用も向上するのではないかな
4. 高齢者の方々に、スマホ教室、スマホの活用教室というようなことをすることによって、それこそGOアプリの活用などにより、利用者を増やす仕組みづくり
5. バスの運営をタクシー会社に委託する
6. デマンド型タクシーも、臨時で併用して走らせることによって、バスのルート以外のところでタクシーを活用する
7. タクシーが呼んでも来ないという声があるので、まずはそれが実際どのぐらいかということを検証する必要があるのではないかな
8. バスとタクシーの運行時間を住み分けし、バスが少ない時間に、タクシーが利用しやすいような仕組みを作る
9. 住民さんがそれぞれ買い物に行く日をまとめる仕組みをつくり、まとめて乗り合いでタクシーを利用してもらう
10. タクシーをワンコインで乗れるような補助
11. コミュニティバスの中にタクシーの利用方法を記載し、こういうときはタクシーを使ってください、とアピールする形で、バスタクシーをうまく住民の皆さんが使い分けできる仕掛けづくりを全面的にやっていく

③全体として

1. 企業、ダイハツやマクセルが、送迎バスを使われているので、使用していない時間があれば、例えばそういったバスを活用させていただき、有効活用して、そこに住民さんも乗れるというような形で、朝の送迎のタイミングでもそこに同乗させてもらえると、というような形が取れたらいいのではないか
2. うぐいす号とか、施設送迎バスなどを上手くシフトみたい組み合わせで、この時間はこの車両を使って、公共交通として使うというのも1つの現実的な方法として考えられる
3. 住民の皆さんにはものづくりではなく、ことづくりを、社会福祉協議会や商工会と一緒に作っていただければと思う。イベントなど、外出のきっかけづくりを皆さんに考えていただければと思う。
4. コミュニティバスを走らせたはいいけど、利用者が少なかったのも、この政策があまりよくなかったとなってしまうのは、その一番避けたいところである
5. 場面場面に分けて、住民さん自身がうまく交通手段を使い分けられる、適切な使い方ができるような、そういった理解を深めていくこと1つかと思う。
乗車体験会などの取り組みを重ねながらですね、ときに歩くことも必要かもかもしれませんし、バスに乗ることも必要かもかもしれませんし、住民さん一人一人がより良い選択をしていただけるような文化を作っていけたらいいなと思う

ワークショップについて

ワークショップとは…

さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら、共に何かを学びあったり、創り出したりする検討方法の一つのスタイルです。

ワークショップのルール

- 相手の意見を尊重する(否定をしない)
- 積極的に自由な発想で発言する(間違いを恐れない)
- 発言はできるだけ短く(1回につき1つ)
- 人のアイデアにどんどん乗っかる(私もそう思うも立派な意思表示)

まずは、アイスブレイク！！

1人30秒で、自己紹介をしてください。

- 氏名
- 年齢(秘密でもOK！！)
- 趣味
- 行ってみたい海外の国

テーマ

前回のアイデアを実行するために
必要なことは？

①住民 ②事業者 ③町

それぞれの役割について考えてください。